辰 明 君 作 作 歌

Ш

森聡

君

Ш̈́

迪寮に若き男子等が まのこら も赤き夕手稲 しき希望 望満

野: 心。 呼力もて進まん

太鼓音闇に消えるかたいこねやみ 夏短かくてスト Ì ムに な

呼轟くかこの石狩平野 の日露に寮歌の声

北溟粉雪に荒ぶ

れ

北斗煌、

夜ゃ

の波が

詩を忘却さ 理" 想" 心の存在求め れ ぬ若人が

鳴呼 涙 して更く 明日の旅路を思い 明日の旅路を思い するだ。 を かあななだ。 があるなだ。 でして更く

の旅路を思いつつ して更くる夜

|呼その自治寮創造くか

胸言 拙なっ ; き言葉 操: 内を打ち明け りて

鳴呼この青春も早や行かんぁぁ

な

鳴ぁ冷っ白ゅ疎マ 呼ぁ徹ゕ雪き々マ 呼声もなく迪を行く 雪舞う木立烈風 たき真理索め たる原始林 に我れ Ĺ 強い 人と ح ζ

鳴呼この 郭かっこう の暗声 の清い らか 3

鳴ぁ雁が楡に

ŋ

暮く

ħ

る

の原始林

呼ぁ

我が憂ひすずろかな

夕暮風の涼

しさに

酔ない

も静寂まりて

も巡れ

る四度に

の悲し

み知れるか

な

の彼方微かなる 初夏も過ぐるかな

鳴ぁ 南なん 呼ぁ 風ぶっ 若が春は Iき 明 日 た 類り この別離永却 っに頬を打 の祝極 ح か らず